

平成29年度
学校評価 総括表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

平成29年度 学校評価総括表

奈良県立西和清陵高等学校

<p>教育目標</p>	<p>教育環境の整備を図り、活力と創造力をそなえた人間形成を学校教育全般で育み、地域との連携を強化し、社会人として「生きる力」を育成する。</p>		<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>(1) 地域と共にある学校づくりの推進 (2) 教職員全員による学校経営への参加 ①報・連・相の徹底 ②教える者自身が学ぶ (3) 学校教育の充実と生徒理解の推進 ①子供たちの可能性を最大限引き出す ②部活動の活性化、生徒会活動の活性化 ③学校行事の充実 ④総合的な学習の時間等、体験学習の機会の充実 (4) 広報活動の充実</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>本年度の重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>基本的な生活習慣の根幹である時間を守るということがおそそかになり遅刻・欠席の増加につながってしまった。そのこと反省から本年度の学校重点目標に「遅刻・欠席をなくす」を掲げ減少させる取り組みを強化する。</p> <p>学習面（学校での学習）・生活面において、基礎・基本の習得に一定の成果を得ることができたが、今後さらに主体的に学習（家庭学習）や諸活動に取り組む姿勢を、一層伸長して教科間の教職員の連携・協力体制を強固なものとしていかなければならない。部活動の加入率が非常に低い。高校生活を充実したものにするためには必要不可欠なものとして捉え、部活動に参加する生徒をもっと増加できるように取り組む。</p>	<p>基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、確かな学力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識や技能を反復することで確実に習得させ、進路実現に向け自ら学ぼうとする力を身に付けさせる。 促進講座等を積極的に活用し、進路を実現する学力を伸長する。 スタディーサポートの結果を分析することで、学力と生活習慣(家庭学習)の関連性を的確に指導する。 	
	<p>基本的な生活習慣の確立に取組み、社会に適応できる人づくりを目指す。(自らの進路を見据え、将来の夢や希望を持った生徒を育成する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夢・希望・志を育み、目標を持たせる教育活動を推進する。 LHR 活動などをおして、自らの生き方や進路について考えさせるなど、キャリア教育の充実を図り、三年間をおした教育活動全般で、組織的・計画的に進路指導を行う。 高大連携による講義体験、模擬試験、資格取得を積極的に実施し、生徒の進路実現の意識を向上させる。 	
	<p>正義感や責任感、連帯感を育み、豊かな人間性を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育を充実し道徳性を養い、主体的に判断する力と適切に行動する力を養う。 ホームルーム活動での人権教育の充実(思いやりがもてる)を図り、常に誠意を持って人に接し、相手の立場に立ったものの考え方を育成する。 集団活動やボランティア活動また就業体験活動を通して、基本的な生活習慣やルールを身につけさせ、豊かな人間性を育成する。 学校や学年また学級行事の意義を周知させ、本校生としての連帯感を共有させ、いじめの根絶に努め、実践力を育む。 清掃活動等の体験、奉仕活動を通して達成感、成就感、自己肯定感を育成するとともに、社会の一員としての自覚を醸成する。 	
	<p>たくましい体力と強い精神力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部活動を積極的に奨励し、1年を通じ入部率6割を維持する。 生涯にわたって運動を楽しむ力を身につけ、自らの体力向上に向けて目標を立て、主体的に取り組む力を育成する。 健康教育(救急体制の徹底等)、安全教育(交通事故の絶滅等)、食育指導(朝食の徹底)を充実する。 生徒会活動を活性化する。 	
	<p>地域との連携を一層強化し、「地域と共にある学校づくり」を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動を一層強化する。プロジェクトチーム、教職員、生徒会、家庭クラブ、部活動、学級活動の連携の強化を図り、地域を取り込んだ協働活動を実践する。 	

B

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
学習指導	基礎・基本の学力の定着	・目的意識を高め学習意欲の向上を目指して、自主学習時間を1日1時間以上させる。目標達成率50%	C	アンケート調査結果(%) ()は当該学年の昨年データ 1年平日42.9、休日58.1 2年平日19.2、休日31.3 (平日19.6、休日27.1) 3年平日10.1、休日15.0 (平日 8.9、休日12.8) 学校評価アンケート(生徒)によると、72%が本校の授業は分かりやすいと評価している。	今後も更に授業展開方法の工夫や教材研究を行う。 予習・復習や課題の提出等の指導だけではなく、進路実現に向けて、家庭での学習の重要性を認識させていく必要がある。	・学習習慣の定着を図る為に家庭学習を促す取り組みをもっと進めるべきである。学習意欲を高める授業、分かりやすい授業を展開し、やれば出来る、もっと勉強したいと思える生徒を増やそうにしたい。
		・生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。	A			
特別活動	ボランティア活動への参加・啓発	・募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。	A	・10月に予定されていた大和川クリーンキャンペーンは中止となったので、3月実施の方へ参加する予定である。募金活動については、文化祭の余り金額19120円を赤い羽根共同募金へ募金した。	・生徒会本部活動は精力的に実施でき、ボランティアや地域活動への参加、報告会への参加や、各学期での挨拶運動の実施が挙げられる。今後は学校内へ還元していく工夫が必要である。部活動においては、途中退部する生徒を減らすことで、目標達成に近づくと考える。	・部活動に頑張る生徒は学校の活性化につながる。入部率を上げる取り組みを引き続き期待する。 ・昨年度、地域が三郷町制50周年ということもあり、さまざまな取り組みへの参加をし、今年度も引き続きこのような奉仕活動は良い経験になる。
	生徒会活動の活性化	・各委員会で行う内容を見直し、委員会活動から学校の活性化を促す。	B	・委員会活動は、委員会によって活動量に明確な差があった。各行事において、委員会ではなく、クラブ員に補助を願う機会が増えたことが理由である。		
	部活動の活性化	・部活動紹介・体験を充実させ、加入率60%を目指す。	C	・部活動加入率は40.9%と低い水準となった。来年度は、何とか50%以上を目指したい。		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	・遅刻指導対象者および指導内容を共通確認し指導する。昨年度の30%減を目指す。遅刻指導を通して健康への意識高揚を図る。 ・一斉頭髪、服装点検を定期的実施する。	B	・遅刻数が昨年度より16%増加した。遅刻に対する意識改革と指導の改善を図る。 ・一斉頭髪、服装点検の定期的な実施が出来た。	・基本的生活習慣の見直しと定着の指導を強化していく。	・昨年以上に遅刻、欠席が多く生活習慣全般を見直し、指導の強化を図って欲しい。
	規範意識の向上	・生活アンケートを実施し自己認識を高め、また、全校集会を通して集団意識の向上を図る。	B	・特別指導、苦情件数が昨年度比50%減となったことから、規範意識の向上が窺える。	・共通理解、意思統一のもと、きめ細かく丁寧な指導を粘り強く行う。	・問題行動の件数としては減少したが、規範意識の向上に努めて欲しい。これからも継続した指導をお願いしたい。
	あいさつの励行	・毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRを通して、コミュニケーションを意識させ、その能力の向上を図る。	B	・全教員による登下校指導が継続出来た。 ・生徒によるあいさつ運動が定期的に出てきた。	・生徒会、委員会活動の活性化を図る。	・挨拶運動強調月間に限らずクラブ員や生徒会によって継続して欲しい。
進路指導・キャリア教育	進路希望の実現	・進路実現に必要な学力を養成するために、年間を通して促進講座を実施する。	B	・先生方の協力で、促進講座の開講は出来たが、生徒の参加が少なかった。	・自分の進路への意識づけを高める。	・進路実現の為に、促進講座を継続させ参加人数が増えるように進路にむけて力をつけるように期待する。
	キャリア教育の推進	・講師を招きピアノ講習や、保育園実習などを4回以上実施する。 ・進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で年2回実施する。	B	・保育園実習・進路ガイダンスについては計画通りに実施出来たが、ピアノ講習会については本年度実施できなかった。	・ピアノ講習について再度考えることと、他の有意義な講習も企画出来ればと思う。	
	進路情報の提供	・「進路ニュース」を年6回発行する。 ・進路説明会やオープンキャンパスの案内、及び進路情報誌を適切に提供する。 ・進路資料室の利用を高める。	B	・「進路ニュース」は6回発行できなかった。 ・オープンキャンパスの案内は、進路室前の掲示でほぼ出来た。 ・進路室の利用は高まったがほぼ3年のみ	・進路室利用が多くなったことによりPCの台数がもう少し増やせればと思う。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
人権教育	人権意識の確立と仲間作り	・人権HRを充実させることで、人権意識、ボランティア意識、道徳意識の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの現状を考えながら人権HRを展開することができた。特にLGBTについて始めてHRで取り組むことができた。 ・人権学習会として在日韓国人のちゃんへんさんによるジャグリングのパフォーマンスと講演会を開催することができた。保護者の方にも参加いただき、研修を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人権課題を学び、取り組まなくてはならない時代の中で、何が一番大切かをよく考え、最も時宜的な課題の研修・研鑽の機会を設けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にも参加してもらえる学習会は継続してもらいたい。そして、さまざまな人権問題に保護者も理解してもらえる学習の機会を増やし協力をさらに得られる努力をして欲しい。
	生徒、教職員、保護者の人権意識の高揚と連携	・効果的な研修会や学習会の企画・運営。 ・生徒、教職員、保護者の共通した意識の高揚とそれに対する啓発活動の具体化を図る。	B			
教育相談 特別支援教育 (教育相談室)	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー配置事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。 ・校内教育相談体制の構築に努める。 ・外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等）との連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」についての外部機関との連携が図れるようになった。 ・生徒のカウンセリング後、担任とカウンセラーとの情報交換の場が定着をした。 ・情報交換等に時間がかかり終了時間がかなり遅くなるのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの有効利用を認識してもらおう。 ・「配慮を要する生徒」の情報共有が円滑かつ厳正に行われるために教員同士のコミュニケーションを密にし、報告書のまとめと更新をまめに行う。 ・発達検査結果を受けた支援を充実させるために支援員の増員が必要である。 ・中学校訪問の情報を受け、早い時期に生徒の状況把握を行い、個々の支援、指導方法を早めに確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校には、配慮が必要な生徒が多く、継続してスクールカウンセラーを導入してもらい有効利用し、校内の教育相談体制の充実に努めて欲しい。 ・一昨年度の反省から昨年度から入学前に中学校訪問を実施され、新学期より支援体制に生かされてたようで、これからも継続してもらいたい。 ・特別支援教育支援員の有効利用と要支援生徒が少しでも授業での支援が行き届くようにしてもらいたい。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。 ・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実に努める。 ・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。 	A			
保健・安全管理	生徒の心身の健康状態の把握と対処	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前、事後指導の徹底。 ・学校保健委員会を通じた生徒の身体状況、健康状態の共通理解。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前、事後指導を個別に行った。 ・各研修等を開催し、教職員・生徒の共通理解を深めることができた。 ・校内救急体制マニュアルに基づき、適切で迅速な体制の周知徹底ができた。 ・職員、生徒対象に熱中症・AED・心肺蘇生法の講座を開き、応急手当の理解を深めた。 ・「目のセミナー」を行い、コンタクトの正しい使用法について講習を行った。 ・保健や家庭科授業と連携し、食事の摂り方や栄養の重要性などを学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校医や他機関と連携し、教職員の意識の向上と知識の深化を図る。 ・生徒自らが健康問題に興味・関心をもって、改善していく努力をしていくための指導とサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自らの自己管理ができるように育てて欲しい。
	危機管理体制の整備と安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内救急体制マニュアルに基づく緊急時の適切で迅速な体制の共通理解。 ・生徒指導部と連携して生徒を対象とした安全教育の実施。 	B			
	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握に基づく全体推進計画の策定。 ・生徒、保護者への啓発活動。 	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
教職員の研究・研修	生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・分掌の研修講座や研究会への積極的な参加奨励と研修内容の共有化を図る。 ・学習・生徒指導・進路指導・教育相談等に関する研修の実施。 ・授業公開・授業研究の実施。 	B A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の研修講座等への参加を教科や分掌等に促し、参加してもらったが、研修内容の共有化を図るための工夫が必要である。 ・観点別評価やアクティブ・ラーニングの実践にむけての研修や生徒指導、進路指導、教育相談等の研修を実施した。 ・保護者に向けての公開授業を実施した。また、初任者の研究授業を実施した。 ・管理職による授業参観はもちろん、各先生方同士で、期間を設けてお互いに授業参観をし、自らの授業力向上・改善を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの研修講座への積極的な参加を促すだけでなく、研修内容の共有化を図るために、報告会や研修資料の閲覧ができるようにする。 ・今後も先生方で同教科はもちろん、他教科の授業参観もお互いに実施し、自分の授業力向上・改善に努めるようにする。 	
学校事務	運営方針に基づく円滑な学校運営のための教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各部署との連携を図りながら、生徒が安全に学習できる学校を目標とした環境の整備を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の老朽化に伴う水漏れ、漏電等に早急に対応し、事故を未然に防ぐことができた。また整備の必要な箇所について情報を集め、できる限りの対応を行った。 ・学校敷地の擁壁など、大規模改修が必要と思われる箇所もあり、今後も状況を注視していかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設備や敷地内の整備については、長年の課題でもあり、費用も時間もかかる。中長期計画を立て、優先順位を考え、教育委員会とも連携しながら、可能な限り対応していきたい。 また、事務室内での情報共有を確実にを行い、内部統制の強化を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減等の問題もあるが、本校も老朽化に伴い敷地内整備に優先順位をつけて解決に取り組んで欲しい。
	情報の共有化による丁寧な接遇及び的確な文書・物品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・親切丁寧かつ迅速に対応できるよう、県教委との連携及び事務室内での情報共有を図る。また、文書及び物品管理を的確に行えるよう管理体制を強化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当外の業務について、担当不在時に最低限の対応ができるよう情報共有を図ることができた。物品については、寄付や廃棄処分などによる現在高の管理・台帳整備に努めた。文書の收受について、確認が漏れた事例があったため、受付手順等について見直しを図った。より適切な対応ができるよう所掌事務について手順等の再点検を要する。 		
	学校運営経費及び光熱水費の適切な執行管理	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の確保が年々困難となる状況のもと、より一層、削減、省エネ等についての啓発に努め、予算執行を適切に行う。また、生徒の活動に対し、充実した支援ができるような徴収金等の執行に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房機器や電気機器等の使用について、省エネを呼びかけ、職員の理解を得ながら、使用料金に関してはなんとか予算内で執行ができたが、異常気象や燃料代の高騰などの要因もあり、十分な削減はできなかった。また、徴収金の執行にあたっては、できる限り要望に応えるよう努力はしたが、全てに対応できなかった。 ・次年度は生徒数が減少し、予算が一層厳しい状況になることが予想されるため、より計画的な執行が課題となる。 		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
広報・渉外	学校教育活動の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「紅葉」の発行及びHP等による広報活動の推進。 ・本校HPの中中学生や卒業生に対する内容の充実。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「紅葉」の内容は、年々充実し、今年度は、保護者の要望として、本校の進路教育について、わかりやすくチャートで示したり、生徒の声をできるだけ掲載した。 ・HPは、担当者が定期的に更新している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・印刷会社との連携をさらに円滑にし、また、HPを通して、より本校の魅力をアピールしていきたい。 		
	保護者・地域・関係諸機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの内容の再検討。特に、生徒自身が自分たちで感じた学校の良さを自分たちの言葉で伝えることができるように体制を組みたい。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となり、学校行事・部活動などの紹介を自分たちの言葉で紹介をした。 ・学校紹介チラシを作成し、教員が手分けをして、多くの中学生と保護者に配付した。その結果、昨年度より参加者が25%増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による自発的なオープンキャンパス運営を目指したい。また、アンケートで好評であった生徒舞台発表をより活性化させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの参加者数も増え好評だったが、30年度の入学生の募集人員以上の受験者が集まることを期待する。
	同窓会の組織	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会組織の整備、名簿管理の業者委託。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会は、活動が停滞ぎみで、管理業者による同窓会総会の連絡は徹底できたが、学校と会員とのコンタクトが薄くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員を再編制し、今年度の卒業生に積極的に声をかけ、自発的な活動に発展させたい。 	
図書情報	図書情報を活用した学校生活の展開を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、教員からの推薦図書を充実させる。 ・授業をサポートできる、授業・総合学習などで利用できる図書館作りを進める。 ・生徒自身が必要な情報を自ら得られる「場」とできる環境整備を進める。 ・図書館だより、新着図書の紹介などの内容をより充実させるとともに、生徒対象の読書・図書館利用アンケートを実施し、図書館利用と読書意欲を喚起する取組を進める。 ・ホームページなどを通じ、本校生徒や保護者、地域、受験生に向けて学校の活動・魅力を発信する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、先生方や生徒からの推薦・要望のあった幅広い分野の図書が増え、授業、学校行事などのサポートができるよう努力した。良書との出会いや読書意欲を喚起できるような取組を進めた。 ・授業、総合学習、進路関係、資格取得対策、自習などで利用できる環境整備を進めた。 ・学校行事（朝の読書、本を語ろう会等）では、広報活動や図書委員会活動の活性化により、本に親しむ生徒が増えた。アンケート調査を通じ、生徒の意識や要望などを把握し、図書館運営に反映できるよう努力した。 ・「朝の読書」、「本を語ろう会」、学級文庫の充実、授業での図書館利用や広報活動などを通じ、生徒の図書館利用者数・貸し出し（延べ数）がほぼ1.5倍に増加した。今後も積極的に広報活動や行事の充実・工夫等を進め、図書館利用者が増えるよう努力する。読書習慣の定着が今後も大きな課題である。 ・「365日いつでもネット」について、昨年度より学級担任も発信できるようになり、徐々に利用が増え、迅速な情報発信に役立った。来年度は、メールアドレスの早期登録完了を目指し、システムのさらなる活用につなげたい。HPの更新において、トピックスは随時であった。部活動ではダンス部の頻度が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書選定における情報収集・選書、図書紹介等をさらに工夫する。 ・各行事においては事前指導を徹底し、内容の改善検討、図書委員会活動の充実を深める。 ・学級文庫や図書館の利用促進を図る。 ・次年度以降もアンケートを実施し、生徒の読書意欲などを把握し、活動に反映させる。 ・図書情報部が関わる外部団体の各種行事に参加・応募を積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも朝の読書や本を語ろう会などを通して、本に親しむように継続した指導を期待する。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
環境・美化	校内施設の保全、安全・防災環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 美化関連用具、及び清掃用具の点検保全。 四季折々の花を絶やさない美化活動。 救助袋を使用した防災学習・訓練の実施。 「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める。 安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の不具合が多かった。 危険な生徒用机と椅子の交換を昨年度より多くした。 チューリップや葉ボタンなどの植栽。 救助袋体験人数を増やし防災危機意識が高まった。 時間が経つにつれ「きれいな学校」への意識が高まったのか目立つゴミが少なくなった。 緊急を要する危険箇所（手すり）を発見し、すぐに対処した。今後も継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ほうきの先端やモップ部分の交換など清掃用具の整備が必要。 「きれいな学校」のため、拭き掃除の頻度を高める。 安全点検の定着化。 地域に貢献できるよう通学路清掃の機会を増やす。 ゴミの分別回収の意識の涵養を普段から行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の学ぶ学校に誇りを持たせ、公共物を大切にすることを高めて欲しい。
	地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティーにおける役割を担う	<ul style="list-style-type: none"> 通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする。 ゴミの分別回収の啓発と徹底。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通学路清掃時、地域の方から挨拶をしてくださることが増えた。 分別用のゴミ箱に対象外のゴミが混じっていることがあった。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動に積極的に参加して、さらに地域と共にある学校づくりに努めて欲しい。
第1学年	基本的生活習慣の見直しから確立へ	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶励行。 時間厳守の徹底。 身だしなみの指導の徹底。 礼儀や正しい言葉遣いの定着。 規範意識の定着。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く指導することで、学校生活をおくるための基盤はできた。しかしながら、遅刻や欠席が多く、基本的な生活習慣の確立が急務である。 授業や提出物に積極的に取り組む生徒、テスト前にはある程度の努力を見せる生徒も多いが、普段の家庭学習の習慣がない生徒が圧倒的多数をしめる。苦手な生徒の底上げだけでなく、得意な生徒を伸ばしていくことが今後の課題。 学校行事に積極的に取り組み、前向きな行動をする生徒が多い。しかし、うまくないじめなかった生徒もおり、転退学者が9人、欠時数を越えた生徒が6人にのぼる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席を粘り強く指導し、学校生活だけでなく、社会生活を意識させる。 自分の力に応じた目標の立て方を支援することで、生徒のやる気を引き出す。 色々な行事を通し、進路獲得への意識を高め、学習に取り組む理由を明確にすることで、自ら学習に取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせめりはりのある学校生活のリズムをつけさせる。 早い時期から自分の進路実現に向けて意識的に取り組ませるように。
	学び直しから基礎学力の充実へ、	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本的内容の復習。 家庭学習の定着（予習復習）。 授業を大切にすることを意識の育成。 	B			
	帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活の理解となかま意識の育成。 学校行事や課外活動への積極的参加。 思いやりの心の育成。 将来を見据えた学校生活の充実。 	B			
第2学年	中堅学年としての自覚と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の向上と規律ある行動の確立。 挨拶励行、基本的生活習慣の確立。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大半の生徒は、規範意識をもち、規律ある行動ができる。挨拶励行においては、もう少し元気がほしい。 修学旅行を通じて集団意識、思いやりの心、愛校心が高まった。 授業を大切し、基礎学力の充実を目標に家庭学習の時間が増えている。 進路実現に関する情報を収集する生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、第3学年という最高学年であり、進路実現の学年でもあるので、早期に学校生活、家庭生活、学習面で何が必要かを再確認させ、進路実現を最高の目標として取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期に学校生活・家庭生活・学習面等で何が大切であるかを最認識させ、次年度に向けて心がまえと積極的な取り組む姿勢が重要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行等の学校行事を通じて集団意識、思いやりの心、愛校心の高揚を図る。 				
	進路実現のための基礎固め	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切にすることを意識の涵養。 基礎学力の充実、家庭学習の実現。 自己能力の認識と開発。 進路に関わる情報の収集。 	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
第3学年	最高学年としての 自覚と社会の一員 となるための資質 の育成	・基本的生活習慣の確立。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立、規範意識の向上といった、社会生活に不可欠な要素の指導に重点を置き一定の成果を挙げた。 ・学校行事等には特に主体的に取り組み、最終学年として充実したものとなった。 ・進路実現に向けた具体的目標の早期設定（3学年進級初期）に努め、多くの者が希望を叶え将来に繋げた。本年度は就職内定率が1次の段階から非常に高かった。 ・家庭学習が不十分であること、促進講座の受講者が少なかったこと、進路決定後の更なる実力養成の3点が課題といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた目標設定が生活全般の意識向上に繋がるため、目標の早期設定（3学年になる以前）を学校全体の重要課題として取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の卒業生は、209名である。 ・1学年時の241名からは32名が転・退学した。 ・卒業した生徒には、本校で学んだ3年間の経験を、これからの人生において余すことなく生かし、さらに飛躍してくれることを期待する。
		・規範意識の向上。				
		・学校行事等への主体的な参加。				
	進路の実現	・具体的目標の早期設定。	B			
・家庭学習の充実と促進講座への積極的参加。						
・進路決定後の指導の徹底。						